

中期目標 (今年度の学校経営の重点)		短期目標 (具体的な目標)	成果・取組指標 (目標達成のための手立て)	1学期のふりかえり・改善案		学年末のふりかえり・改善案		学校関係者評価委員会	
				評定 A~D	今後の改善案等(文面で)	評定 A~D	学年末の振り返り	評定 A~D	学年末の振り返り
自ら共に学ぶ子どもの育成	ICT 機器を効果的に活用した授業づくり	・児童:学習内容やその目標に応じて基本的な機能を選択して操作ができるようにする。	・ICT機器の操作に慣れ、朝学習、授業、家庭学習等の時間の中で基本的な機能を使うことができる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々のICT活用によって、児童の操作スキルが上がってきているので、引き続き授業の中でICT機器の操作に慣れていく。 タブレットドリルやnavimaでの宿題配信は、活用しやすかったので引き続き行う。 タブレットの活用場面を考えていくことが必要。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、ICTを活用し、操作スキルを上げてきた。学年に応じて基本的な機能を選択して操作できるようになっている。筆記に抵抗感がある児童も、意欲的に取り組むことができた。 タイピング能力には個人差があり、学習活動で使用する際には個別支援が必要となってくる。今後も、低学年のうちからタイピング練習に取り組んでいけるとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを使いこなすと同時に、安心安全に使用できるように、郷田っ子タブレットルール6か条を継続して意識づけをする。 目的に応じ、ICT活用とのハイブリットで個別最適な学びを実現する。
		・教員:ICT機器を効果的に活用する授業の構想力を高めていく。	・校内研修で授業プランの作成・実践と考察を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降、授業実践を通して、ICT機器を効果的に活用する授業の方法を探っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修等を通して、新たな活用方法を見出すことができた。発表ノートやTeamsを使うことで、個別学習だけでなく、グループや全体の活動場面でも活用することができた。 操作や活用の仕方ですぐ上手くないこともあったが、実践しながら効果的な方法を探ることができた。授業の中で、必要感をもって活用していけるように、今後も効果的な活用方法を探っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集、対話、表現の場など多様な方向性に向け活用の場を増やしてほしい。 何のためにICTを活用するのか、授業の目的意識や必要性をもって研修を行ってほしい。
	ふるさと教育の充実	・「ひと、もの、こと」との出会いを通して、意欲的に探求しようとする授業を構築する。	・各学年の教育活動に、地域の方と連携した学びを取り入れ、ふるさとの「ひと、もの、こと」から学ぶ場を作る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、単元ごとに「ひと・もの・こと」から学べる場を設けるようにする。 1~6年の各学年の学習において、鳥根県、江津市、郷田、松川、川平などの地域名などを意識的に使うようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 社会・総合・生活科・理科・家庭科・音楽などでふるさとの「ひと・もの・こと」から学ぶ機会を作ることができた。特に、創立150周年ということもあり、『ようこそ先輩』で地域の方から話を聞くことで、学びを深めることができた。 学校周辺の「ひと・もの・こと」を気軽に活用できる学習の機会を検討したい。生活科の「町たんけん」で郵便局や神社を巡るなど。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ようこそ先輩」は創立150周年記念ならではの良い機会だった。在校生の記憶に残る取り組み。 日常生活で、児童が地域を感じることは少ないので意識的に取り組むことが必要。
認め合い支え合う子	望ましい教育環境を構築	・規範意識を高める生徒指導を行う。	・その場に適した行動を意識させ、価値づけを行う。(廊下の正しい歩行、静かに歩く、集合等)	B	<ul style="list-style-type: none"> 登校時のあいさつについて意欲をより高めると共に、細やかな声掛けを行う。 外部交流の機会を通して「すすんであいさつ」を意識するようにする。 教職員が児童のよさを価値づけ、同じ評価規準で接するようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつについて意識付けを行った期間や場面では意欲も高まるが個人差も大きく、不十分な実態のままである。長期的な取り組みを続けていく必要がある。 児童のよい行動を見逃さず、褒めたり教員で共有したりした。また、同じ視点で指導すべきことは指導したことで、児童の規範意識を高められるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」は基本家庭。学校生活でよりよい方向に導いていくのは大切だが、家庭を巻き込んでいく方法があればなおよい。 子どもから大人との挨拶だけでなく、子ども同士のあいさつが行きかうと良い。

令和7年度 学校評価

あこがれといたわり	互いを尊敬し、受容するあたたかい人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自他が気持ちよく安全に過ごせるよう、生徒指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動やなかよし班を使って、異学年集団での活動やつながりの機会をつくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除など協力し合う姿が見られる。異学年活動場面での助け合いが生まれるような場を今後も意識して設定する。(熱中症リスクも考慮して全校活動や全校遊びの企画と実施を行う。)(交流給食という意見も) ・児童会活動を通して、児童自身が認め合える場を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体となって取り組む場を意図的に取り入れた活動場面が増えた。(児童の意識が変わるまでしばらくかかるだろうが、「やらされる委員会活動」にならないよう、異学年の助け合いが生まれるような場を今後も意識して設定していきたい。) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の枠を超えた仲の良さも必要だが、学年のリーダー性を育てていく必要もある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止のためのよりよい集団づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やその他の職員による児童理解や気づきの共有を継続する。 ・生徒指導上の諸課題やそれらへの支援等について「早期発見・早期対応」に努める。 ・他機関との連携も図り、より多くの目で児童を見守る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やその他の職員による児童理解や気づきの共有を行い、生徒指導上の諸課題やそれらへの支援等について「早期発見・早期対応」に努めることができた。 ・ケース会や支援会議等を通して、外部機関につなげることができた。今後も、児童やその背景をしっかりと観察し、継続的に取り組んでいきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携をとりながら、組織で動くことは大切。 ・学校は細かいところまで子供たちを見てくれている。 		
健康でたくましい子	健康に過ごせる児童を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことの楽しさを感じられるような機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会による全校遊び、ボール運動を中心とした基礎感覚づくりに関わる運動に親しむ機会を設定する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・全校遊びの実施が1学期末となり、気温が高いことから実施できなかった。実施時期の見直しが必要。 ・いきいきエクササイズは種目の検討が必要。(水泳授業の際は実施できなかった) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校遊びは3学期に実施予定。 ・授業始めにいきいきエクササイズを取り入れてよかった。担任もいきいきエクササイズをすることでコミュニケーションにつながった。 ・来年度は、縦割り遊びなどを通して運動習慣をつける取り組みが必要。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プール学習は、命を守るための学習であり大切。 ・気温の影響はとても大きい。 ・外遊びが少ない。外遊びで活発に遊ぶ子供の姿が少なくなった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会をとらえて、保健指導や食育指導などの健康教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごうだっ子いきいきチャレンジ」の事前・事後指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導、事後指導とも学級で時間をとって行うことができたが、児童の評価が低い。2学期以降は事前指導や事後指導の実施の仕方を検討する必要。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、栄養教諭からの事前指導があり、児童が自分事として考えられていたが、家庭の協力を得るためにも、お便り等で情報発信をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養を考えることは、自分や家族を大切にすること。性差なく取り入れてほしい。
地域連携	積極的な情報発信、計画的な教育活動の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に関する情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物、配信プリントにより健康や安全に関する情報を発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室前の掲示やテトル配信によって情報の発信ができていた。 ・学習公開日に合わせて、「ごうだっ子いきいきチャレンジ」の結果を公開できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室周辺の掲示前で児童が立ち止まって、掲示を見ている。教職員も立ち止まって一緒に見て、コミュニケーションにつながっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大人でも多数ある健康の情報を選んでいくのは大変。まずは、基礎知識か身近なことから。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の情報を積極的に発信し、理解啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な学校だより、学級通信、連絡メール等の活用、学校行事等の案内を適宜行い、教育活動を地域や保護者に効果的に発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信等計画的に出すことができた。 ・学校行事等の案内を情報ツール「テトル」にて配信ができた。 ・今後は150周年事業や学校行事が増える。計画的な発信をしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学級だよりや学校だよりを計画的に出し、理解啓発を図った。 ・学校行事等の案内を情報ツール「テトル」にて積極的に配信した。 ・創立150周年記念事業について積極的に配信し、周知することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係が今後どう進んでいくか？学校の情報は今後も地域に届けてほしい。

自己評価については、 A：十分達成 B：ほぼ達成 C：一部に課題がある D：大きな課題がある

アンケート結果、実績値などの数値化によって評価する。 1学期の評価は児童・教職員 2学期の評価は児童・教職員・保護者
 その場合、100%の達成率に対して、 A：肯定的評価80%以上 B：60～79% C：40～59% D：39%以下とする。